

「無駄になっていない」竹田高校剣道部員 熱中症で苦しむも繰り返された暴行...死亡事故13年両親の思い

8/24(水) 16:23 配信   92

 **OBS** 大分放送

大分放送

大分県立竹田高校で部活動中に熱中症になり、亡くなった工藤剣太さん。生きていれば今年30歳になっているはずでした。13年前に助けられなかった命の重さを教訓に子どもたちの命を守る取り組みが進められています。

【写真を見る】「無駄になっていない」竹田高校剣道部員 熱中症で苦しむも繰り返された暴行...死亡事故13年両親の思い

■救命士夢見た17歳の死...学校全体で生徒の命を守る取り組み進む

大分県立竹田高校剣道部の主将を務めていた工藤剣太さん（当時17）。2009年8月22日、部活動の練習中に熱中症を発症し、そのまま帰らぬ人となりました。

父・英士さん:「今何時?」

母・奈美さん:「12時27分もう搬送されるくらい」

父・英士さん:「27分だから救急車が来たころ。来てなにかしているころやな。救命士になりたかったと言っていたからそういう仕事に就いていたんだらう。たまに帰ってきて話したり酒飲んだりしていただろうな。子どももできていたかな、いろいろなことは想像するけどな」

竹田高校では悲劇を繰り返さないために剣太さんの命日である8月22日を「健康・安全の日」と定めています。この日、合澤哲郎校長は校内放送で「命の危険な状況に気づく、感じるということはできると思います。二度と竹高生が熱中症で命を失うことがないようにどうかみなさん行動する、行動できることを常に心に留めてください」と全校生徒に伝えました。

22日に行われた始業式の終了後、熱中症を想定した緊急対応訓練が実施されました。剣太さんの両親も招かれるなか、部活動ごとに応急処置や緊急連絡の手順を確認。学校全体で生徒の命を守っていく意識を再確認しました。

母・奈美さん:

「一人危険な子が出たら『あのときにやったあれだ』と言って、みんなが動いたら絶対に命を守れると思う」

■「17年生きてきて命を落としてしたけど無駄になっていない」

一方、この事故をめぐる住民訴訟では熱中症に苦しむ剣太さんに暴行を繰り返した元顧問の重過失を認定。国家賠償法で守られた公務員にも求償権という形で個人責任を負担させる、異例の判決を勝ち取りました。

日本大学危機管理学部・鈴木秀洋准教授:

「行政法の学者や実務の人間からしても、この訴訟で勝てるはずがないと誰もが思っていた。この判決が出たからびっくりして歴史が変わったと思っています」

行政法務に詳しい日本大学の鈴木秀洋准教授は「形骸化していた求償権に風穴を開ける歴史的な判決」と分析。全国の自治体でも実際に求償権を行使するケースや公務員の個人責任について研修する機会が増えています。

日本大学危機管理学部・鈴木秀洋准教授:

「ちゃんと行政法の逐条や書籍にも例としてあがっていますし、どういう場合に自分たちが責任を問われるのかという観点からもこの事件から学ばなければならないという人たちは増えています。みなさんが学ぶことで子どもの命が今後守られてくる」

剣太さんの命が失われたことをきっかけに見直しが進む学校の安全対策。今年は両親にとっても前向きな言葉を報告することができました。

母・奈美さん:

「子どもたちの尊い命を守るように周りが動いてくれているよ。あなたが17年生きてきて命を落としてしまったけど決してわたしたちは無駄にしたくなかったし無駄になっていないと信じているのでお父さんとお母さんが動ける間は剣ちゃんもう少し一緒にがんばろうね」

13年の月日を経ても我が子を失った辛さが消えることはありませんが、悲劇を二度と起こさないという強い思いは着実に実を結んでいます。

大分放送



「命を教訓」変わる学校の安全対策

竹田高校熱中症死亡事故から13年

議員・行政職員必修

子どもを

日本大学危機管理大学院
鈴木秀洋准教授

行政法の学者や実務の人間からしても
この訴訟で勝てるはずがないと誰もが思っていた

「命を教訓」変わる学校の安全対策

竹田高校熱中症死亡事故から13年

議員・行政職員必修

子どもを守る

剣太の生

に遺した

この判決が出たからびっくりして
歴史が変わったと思っています

「命を教訓」変わる学校の安全対策

竹田高校熱中症死亡事故から13年

剣太の会



「命を教訓」変わる学校の安全対策

竹田高校熱中症死亡事故から13年

日本大学 鈴木秀洋准教授

「形骸化していた求償権に
風穴を開ける歴史的な判決」

「命を教訓」変わる学校の安全対策

竹田高校熱中症死亡事故から13年

日本大学 鈴木秀洋准教授

「形骸化していた求償権に
風穴を開ける歴史的な判決」

「命を教訓」変わる学校の安全対策

竹田高校熱中症死亡事故から13年

鈴木秀洋准教授

日本大学危機管理センター

議員・行政職員必修

子どもを守る

剣太の生...に遺した

ちゃんと行政法の逐条や書籍にも
例としてあがっていますし

「命を教訓」変わる学校の安全対策

竹田高校熱中症死亡事故から13年

どういう場合に自分たちが
責任を問われるのかという観点からも

「命を教訓」変わる学校の安全対策

竹田高校熱中症死亡事故から13年

議員・行政職員必修

子どもを守

剣太の生

に遺した

みなさんが学ぶことで
子ども命が今後守られていくのかな